

# 日本文学専攻

## 〔2〕 研究指導スケジュールと研究指導概要

### A. 博士課程前期

博士課程前期においては、指導教員が修士論文の完成まで指導を行う。修士論文執筆の能力を獲得するとともに、最新の研究動向を学術情報発信の場から学ぶため、学外学会や研究会への参加を奨励している。

年次	内容	研究指導概要
1年次		
4月	研究計画書作成指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員の決定</li> <li>・指導教員と相談しながら研究テーマ・研究計画概要を決定する。</li> <li>・前期課程2年次の修士論文中間発表会・後期課程学生の成果報告会に参加し、研究や論文作成方法を修得する</li> <li>・学外学会や研究会への参加を奨励</li> <li>・全員が現在の研究テーマについて発表し、問題点等に関して質問を受ける。</li> </ul>
5月下旬～	随時、指導教員に研究指導の進捗状況を報告し、研究指導を受ける。	
11月下旬	国語国文学会秋季大会での研究発表	
2年次		
4月	学位論文執筆ガイダンスへの参加 「特別研究」において、指導教員に研究の進捗状況を報告し、指導を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文執筆ガイダンスの実施</li> <li>・修士論文執筆指導及び研究指導</li> <li>・専攻の専任教員全員が出席する。</li> <li>・専攻の学位授与方針と研究科の学位論文審査基準に照らし、発表内容について問題点等を指摘し、適切な指導を行う。</li> <li>・指摘を踏まえ、主として指導教員が、「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき研究指導を行う。</li> <li>・修士論文審査、口述試験の実施</li> <li>・修士論文可否の決定 (博士課程後期入学者の決定)</li> <li>・「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき審査を行ったことの確認、修了決定。</li> </ul>
9月	修士論文中間発表会での中間報告 中間発表会で受けた指摘等を踏まえ、研究を深化させる。	
1月下旬～2月	修士論文の提出、口述試験 (博士課程後期入学試験)	
3月	研究科委員会における修了認定 学位(修士)授与	

※上記は3月学位授与のケースであり、状況により内容及び時期等を変更する場合がある。

#### (1) 論文審査手続き

[修士論文]

(提出資格)

博士課程前期に在学し、専攻で認められた者。

(提出期限)

1月下旬とし、その年度ごとに定める。

(中間発表)

9月

(提出書類)

修士論文。その他の提出書類については専攻の定めによる。

(論文の審査)

審査は指導教員を含む大学院担当教員が主査1名・副査2名以上で行う。

(最終試験)

最終試験は、口頭試問の方法によって行う。そこでは、学位論文の内容に関する質疑を行うとともに、関連する専攻分野の知識についても試問する。また、結論や考察について論理的に説明する力や表現力についても評価する。必要に応じて、筆答試問を併せて行うことができる。

(審査結果の判定)

学位論文の可否については、論文主査および副査による評価を踏まえ、専攻会議で審査する。その際、専門知識、論理的実証的な思考力、正確な表現力を身につけているかなどを中心に、学位授与方針に基づく達成度を踏まえることとする。専攻会議での審査を踏まえて、課程修了の可否を、研究科委員会で審議し決定する。

#### (2) 論文審査基準

[修士論文]

修士論文の審査及び最終試験の試問により、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を有しているかを審査する。

なお、修士論文は各研究科の学位論文審査基準（大学院要覧28頁以降参照）に従って審査される。

## B. 博士課程後期

博士課程後期においては、博士論文提出にあたって学会誌などに掲載された学術論文を3編以上有すること、うち1編は査読誌に掲載されたものであることが基礎資格として課されている。博士課程前期と同様、指導教員による個別指導が行われる。最新の研究動向を学術情報発信の場から学び、研究者としての経験を積むため、学外学会や研究会への参加は前期に引き続き奨励される。

なお、以下の論文指導スケジュールは、学生の専門分野や研究の進捗状況によって異なるため変動的である。指導教員による博士論文作成に関する指導は随時行われ、予備審査会における研究計画の承認や博士論文成果報告会も学生ごとに行われる。

年次	内容	研究指導概要
1年次		
4月	学位論文執筆ガイダンス 研究指導体制・指導計画の確定	・学位論文執筆ガイダンスの実施 ・指導教員の決定 ・指導教員による博士論文執筆指導及び研究指導
9月下旬	指導教員に対して研究の進捗状況等を随時報告し、指導を受ける	・研究の進捗状況等の報告を随時受け、研究指導を行う。
11月下旬	論文執筆計画の確認 博士論文成果報告会への参加 国語国文学会秋季大会での研究発表	・論文執筆指導計画の見直し ・全員が現在の研究テーマについて発表し、問題点等に関して質問を受ける。
2年次～		
4月～2月	研究テーマ・内容の確認と決定	・学位論文執筆の進捗状況を随時確認し、研究指導を行う。
9月下旬	博士論文成果報告会への参加	・学位論文の構想や個々の事柄について問題点を指摘し、指導する。
11月下旬	国語国文学会秋季大会での研究発表	・全員が現在の研究テーマについて発表し、問題点等に関して質問を受ける。
最終年次		
4月～7月	専攻内博士論文執筆資格審査(予備論文審査会)	・審査委員会(予備審査会)の設置及び資格審査 ・専攻の学位授与方針と研究科の学位論文審査基準に照らして資格審査(予備審査)を行い、問題点等を指摘する。
1月	学位申請論文及び概要等の提出 研究科委員会での学位申請論文受理	・専攻会議にて資格審査結果の報告を行う。 ・指摘を踏まえ、主として指導教員が、「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき研究指導を行う。
2月	審査委員会による公開審査(公開口頭試問)	・研究科委員会へ博士論文提出 ・審査委員会の設置(主査1名・副査4名) ・博士論文の審査 ・口述試験の実施
2月～3月	研究科委員会における審査結果報告、学位授与審議 学位(博士)授与	・「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき審査を行ったことの確認、学位(博士)授与の決定。

※上記は3月学位授与のケースであり、状況により内容及び時期等を変更する場合がある。

### (1) 論文審査手続き

[博士論文]

<予備論文>

(提出資格)

博士課程後期に在学し、必要な研究指導を受けた者。

(提出期限)

7月または1月。

(提出書類)

専攻の定めによる。

<博士論文>

(提出資格)

博士課程後期に在学し、必要な研究指導を受けた者。予備論文審査に合格した者。

(提出期限)

1月または6月。

(提出書類)

博士論文・論文概要書各5部。その他の提出書類については専攻の定めによる。

(論文の審査)

博士論文の審査のため、研究科委員会は審査委員会を組織する。

審査委員会は、当該研究科の教員のうちから学位論文に関連のある授業科目を担当する教員3名以上を審査委員に選出する。

(最終試験)

最終試験は、口頭試問の方法によって行う。そこでは、学位論文の内容に関する質疑を行うとともに、関連する専攻分野の知識についても試問する。また、結論や考察について論理的に説明する力や表現力についても評価する。必要に応じて、筆答試問を併せて行うことができる。

(審査結果の判定)

学位論文の可否については、論文主査および副査による評価を踏まえ、専攻会議で審査する。その際、専門知識、論理的実証的な思考力、正確な表現力を身につけているかなどを中心に、学位授与方針に基づく達成度を踏まえることとする。専攻会議での審査を踏まえて、課程修了の可否を、研究科委員会で審議し決定する。

(2) 論文審査基準

[博士論文]

博士論文の審査及び最終試験の試問により、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有しているかを審査する。なお、博士論文は各研究科の学位論文審査基準（大学院要覧28頁以降参照）に従って審査される。

# 英文学専攻

## 〔2〕 研究指導スケジュールと研究指導概要

### A. 博士課程前期

博士課程前期においては、指導教員が修士論文の完成まで指導を行う。修士論文執筆の能力を獲得するとともに、学術情報発信の実験を経験するため、学会への参加が奨励される。

年次	内容	研究指導概要
1年次		
4月	ガイダンスへの参加 随時、指導教員に対して研究の進捗状況を報告し、研究指導を受ける。	・学位(修士・博士)論文執筆についての指導を含むガイダンスの実施 ・4月以降指導教員による修士論文執筆に向けての指導を行う。
6月～	研究テーマ・内容の確認と決定	・2年生が行う修士論文中間発表会(9月末～10月初旬)に参加させ、研究や論文作成方法を指導する。 ・学会への参加を奨励
2年次		
4月	ガイダンスへの参加	・学位(修士・博士)論文執筆についての指導を含むガイダンスの実施 ・指導教員による論文執筆および論文提出についての指導を行う。
9月末～10月初旬	修士論文中間発表会で報告	・中間発表会で博士課程前期・後期の大学院生全員の前で発表し、英文学専攻教員全員からの指導を受ける。 ・専攻の専任教員全員が出席する。 ・専攻の学位授与方針と研究科の学位論文審査基準に照らし、発表内容について問題点等を指摘及び指導する。 ・指摘された問題点等をふまえて、主として指導教員が研究指導を行う。指導は「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき実施する。
10月～12月	中間発表会で指摘された問題点等を踏まえて、研究を深化させる。	・中間発表会で指摘された問題点等を踏まえた研究指導
1月～2月	修士論文審査委員会の設置	・主査1名、副査2名の決定
	修士論文の最終提出、口頭試問(博士課程後期入学試験)	・修士論文審査の実施 ・最終試験(口述試験)の実施(博士課程後期入学者、進学者の決定) ・修士論文合否の決定
3月	研究科委員会における修了認定論文返却会の実施 学位(修士)授与	・「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき審査を行ったことの確認、修了決定。 ・論文返却会にて提出論文に関する反省会の実施

※上記は3月学位授与のケースであり、状況により内容及び時期等を変更する場合がある。

#### (1) 論文審査手続き

[修士論文]

(提出資格)

博士課程前期に在学し、専攻で認められた者。

(提出期限)

1月下旬とし、その年度ごとに定める。

(中間発表)

9月下旬または10月上旬。

(提出書類)

修士論文3部。

(論文の審査)

審査は指導教員を含む大学院担当教員が主査1名・副査2名以上で行う。

主査・副査は2月頃に決定する。

(最終試験)

最終試験は、学位論文の内容及びこれに関連ある専攻分野の科目について、試問の方法によって行う。なお、試問については口頭による。ただし、筆答試問を併せて行うことができる。また、これらの試問において、論文の内容を的確に伝えるための構成力や表現力についても評価する。

(審査結果の判定)

論文の合否および評価は研究科委員会の審議を経て決定する。決定にあたっては、専門知識と技能、判断力、および研究能力を中心として、学位授与方針に基づく達成度を踏まえる。

(2) 論文審査基準

[修士論文]

修士論文の審査及び最終試験の試問により，広い視野に立って精深な学識を修め，専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を有しているかを審査する。

なお，修士論文は各研究科の学位論文審査基準（大学院要覧 28 頁以降参照）に従って審査される。

## B. 博士課程後期

博士課程後期においては、博士課程前期と同様、博士論文完成に向けて指導教員による指導がなされる。研究情報発信の経験と知識を積むために学会への参加は、前期に引き続き奨励される。  
なお、以下の論文指導スケジュールは、学生の専門分野や研究の進捗状況によって異なるため変動的である。

年次	内容	研究指導概要
<b>1年次</b>		
4月	ガイダンスへの参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位(修士・博士)論文執筆についての指導を含むガイダンスの実施</li> <li>・4月以降指導教員による博士論文執筆指導及び研究指導を行う。</li> <li>・履修(博士論文執筆)指導計画の策定</li> </ul>
9月末～10月初旬	研究指導体制・指導計画の確定  指導教員に対して、研究の進捗状況等を随時報告し指導を受ける。 中間発表会参加	
<b>2年次</b>		
4月	ガイダンスへの参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位(修士・博士)論文執筆についての指導を含むガイダンスの実施</li> <li>・引き続き指導教員による論文執筆指導及び研究指導を行う。</li> <li>・中間発表会で問題点等を指摘する。</li> </ul>
4月～2月 9月末～10月初旬	研究テーマ・内容の確認と決定  中間発表会参加	
<b>3年次</b>		
4月	ガイダンスへの参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位(修士・博士)論文執筆についての指導を含むガイダンスの実施</li> <li>・研究の進捗状況等の報告を随時受け研究指導を行う。</li> </ul>
7月	指導教員に対して、研究の進捗状況等を随時報告し指導を受ける。 博士論文予備審査会	
9月末～10月初旬	中間発表会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予備審査会を設置(主査1名、副査2名)する。</li> <li>・専攻の学位授与方針と研究科の学位論文審査基準に照らし予備審査を行い、問題点等を指摘及び指導する。</li> <li>・専攻会議にて予備審査結果の報告を行う。</li> <li>・指摘された問題点等をふまえて、主として指導教員が研究指導を行う。指導は「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき実施する。</li> <li>・中間発表会で問題点等を指摘する。</li> </ul>
1月	博士論文の提出	
提出より1年以内	審査委員会による公開審査	
3月	研究科委員会における審査結果報告、学位授与審議 学位(博士)授与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士論文の審査</li> <li>・最終口述試験の実施</li> <li>・「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき審査を行ったことの確認、博士学位授与の決定。</li> </ul>

※上記は3月学位授与のケースであり、状況により内容及び時期等を変更する場合がある。

### (1) 論文審査手続き

[博士論文]

<プロポーザル>

(提出資格)

博士課程後期に在学し、必要な研究指導を受けた者。

(提出期限)

1月末日または9月末日。

(提出書類)

履歴書・研究業績一覧・プロポーザル・主な論文/研究業績(ただし、レフリー付きの論文1点以上を含む)・主な論文/研究業績の要旨各5部。

<予備論文>

(提出資格)

博士課程後期に在学し、必要な研究指導を受けた者。プロポーザル審査に合格した者。

(提出期限)

博士論文提出の遅くとも半年前まで。

(提出書類)

履歴書・研究業績一覧・博士論文概要書・予備論文各3部。

<博士論文>

(提出資格)

博士課程後期に在学し、必要な研究指導を受けた者。予備論文審査に合格した者。

(提出期限)

①在学学生(留年者、大学院再入学規則第7条(2)(3)適用者含む)：1月および6月。

②大学院再入学規則第7条(1)適用者：12月および5月(但し再入学出願前)

(提出書類)

履歴書・研究業績一覧・博士論文概要書各5部、博士論文6部、博士論文インターネット公開 全文公表確認・許諾書1部。

(論文の審査)

博士論文の審査のため、研究科委員会は審査委員会を組織する。

審査委員会は、当該研究科の教員のうちから学位論文に関連のある授業科目を担当する教員3名以上を審査委員に選出する。

(最終試験)

最終試験は、学位論文の内容及びこれに関連ある専攻分野の科目について、試問の方法によって行う。試問については、口頭による。ただし、筆答試問を併せて行うことができる。また、これらの試問において、論文の内容を的確に伝えるための構成力や表現力についても評価する。

(審査結果の判定)

論文の可否および評価は研究科委員会の審議を経て決定する。決定にあたっては、専門知識と技能、判断力、および研究能力を中心として、学位授与方針に基づく達成度を踏まえる。

## (2) 論文審査基準

[博士論文]

博士論文の審査及び最終試験の試問により、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有しているかを審査する。なお、博士論文は各研究科の学位論文審査基準(大学院要覧28頁以降参照)に従って審査される。

## 史学専攻

### 〔2〕 研究指導スケジュールと研究指導概要

#### A. 博士課程前期

博士課程前期においては、主査を中心に学内の指導教員が修士論文の完成まで指導を行う。修士論文執筆の能力を獲得するとともに学術情報の発信の実際を経験するために、学会・研究会等への積極的な参加が推奨される。また、その実践として、専攻内各発表会での報告を義務づける。

年次	内容	研究指導概要
1年次		
4月	学位論文執筆ガイダンスへの参加。  随時、指導教員に対して研究の進捗状況を報告し、研究指導を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位(修士・博士)論文執筆ガイダンスの実施。</li> <li>・指導教員1名、副指導教員2名の決定。</li> <li>・4月以降指導教員、副指導教員による修士論文執筆指導および研究指導。</li> </ul>
6月	研究テーマ・内容の確認と決定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生が行う修士論文中間発表会、最終報告会に参加し、研究方法や論文作成方法、発表方法等を習得させる。</li> <li>・学会・研究会への参加を奨励する。</li> </ul>
2年次		
6月	修士論文発表会に向け、発表内容、発表方法等について指導を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文中間発表会で問題点等を指摘し、指導する。</li> </ul>
7月	修士論文中間発表会で報告。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の専任教員全員が出席する。</li> <li>・専攻の学位授与方針と研究科の学位論文審査基準に照らし、発表内容について問題点等を指摘及び指導する。</li> </ul>
9月～10月	修士論文中間発表会で指摘された問題点等を踏まえて研究を深化・発展させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文中間発表会で指摘された問題点等をふまえた研究指導を行う。</li> <li>・指摘された問題点をふまえて、主として指導教員が研究指導を行う。指導は「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき実施する。</li> </ul>
1月～2月	修士論文の最終提出。 口頭試問および修士論文の発表会。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文審査委員会の設置。</li> <li>・修士論文審査の実施。</li> <li>・最終試験(口述試験)の実施。</li> </ul>
2月	研究科委員会における修了認定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき審査を行ったことの確認、修了決定。</li> </ul>

※上記は3月学位授与のケースであり、状況により内容及び時期等を変更する場合がある。

#### (1) 論文審査手続き

[修士論文]

(提出資格)

博士課程前期に在学し、専攻で認められた者。

(提出期限)

原則として1月末日

(中間発表)

6～7月

(提出書類)

修士論文・論文概要書各3部。

(論文の審査)

審査は指導教員を含む大学院担当教員が主査1名・副査2名以上で行う。

主査・副査は1月頃に決定する。

(最終試験)

最終試験は、学位論文の内容及びこれに関連ある専攻分野の知識について、試問の方法によって行う。試問は原則口頭によるが、筆頭試問を併せて行うことができる。口頭試問では、学位論文の内容について論理的に説明する表現力、円滑なコミュニケーション能力があるか、また歴史に関わる多様な史料について、情報収集能力、読解力、分析力が十分身に付けられているか、さらに現代世界の諸事象を歴史的に理解する力が備わっているかについても評価する。

(審査結果の判定)

学位論文の可否は、論文主査および副査による評価を踏まえ、専攻会議で審議して決定する。可否の判定に際して、専門知識、史料調査能力及び読解能力、客観的・論理的・体系的な思考力、さらにそれらを形にする構想力及び表現力を身につけているかを中心に、学位授与方針に基づく達成度を踏まえて評価する。専攻会議での決定と評価を受けて、課程修了の可否を、研究科委員会で審議し最終決定する。

(2) 論文審査基準

[修士論文]

修士論文の審査及び最終試験の試問により，広い視野に立って精深な学識を修め，専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を有しているかを審査する。

なお，修士論文は各研究科の学位論文審査基準（大学院要覧 28 頁以降参照）に従って審査される。

## B. 博士課程後期

博士論文の提出にあたっては、学会誌または大学院紀要などに掲載された論文を3編以上有すること、また学会誌掲載論文のうち1編は審査を経て認められた査読論文であることが基本的資格として課せられるため、研究情報発信の経験と知識を積むために学会・研究会等の機会への積極的参加は、博士課程前期に引き続き奨励される。博士課程前期と同様、指導教員を含む複数の指導教員による指導がなされる。なお、以下の論文指導スケジュールは、学生の専門分野や研究の進捗状況によって異なるため変動的である。指導教員による博士論文作成に関する指導、予備審査会における研究計画の承認や、博士論文中間発表会が毎年2回ずつ学生ごとに行われる。

年次	内容	研究指導概要
1年次		
4月	博士学位論文執筆ガイダンス。 研究指導体制・研究計画の確定。	博士論文執筆ガイダンスの実施。 ・指導教員1名、副指導教員2名の決定。 ・4月以降指導教員、副指導教員による博士論文執筆指導及び研究指導を行う。
10月	指導教員に対して、研究の進捗状況等を随時報告し、研究指導を受ける。	・履修(博士論文執筆)指導計画の策定。 ・研究の進捗状況等の報告を随時受け、研究指導を行う。
3月	履修(博士論文執筆)指導計画の確認。 博士論文中間発表会参加。	・履修(博士論文)指導計画書の見直し。
2年次		
4月	研究テーマ・内容の確認と決定。	・博士論文執筆の進捗状況を確認し研究指導を行う。
6月	博士論文専攻内予備審査。	・予備審査会を設置(主査1名、副査2名)。 ・博士論文の予備審査。 ・口述試験の実施。 ・専攻の学位授与方針と研究科の学位論文審査基準に照らし予備審査を行い、問題点等を指摘及び指導する。 ・専攻会議にて予備審査結果の報告を行う。
3月	博士論文中間発表会参加。	・指摘された問題点をふまえて、主として指導教員が研究指導を行う。指導は「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき実施する。 ・博士論文中間発表会で問題点等を指摘及び指導する。
3年次		
6月	博士学位申請論文及び概要等の最終提出。	・研究科委員会への博士論文提出。 ・学位審査委員会の設置(主査1名、副査4名の承認)。
9月～	研究科委員会博士学位論文受理。 審査委員会における公開審査(公開口頭試問、最終試験の実施)。	・博士論文の審査。 ・最終口述試験の実施。
2月	研究科委員会における審査結果報告、学位授与審議。	・「学位授与方針と学位論文審査基準の連関」に基づき審査を行ったことの確認、博士学位授与の決定。
3月	学位(博士号)授与。	

※上記は3月学位授与のケースであり、状況により内容及び時期等を変更する場合がある。

### (1) 論文審査手続き

[博士論文]

<予備論文>

(提出資格)

博士課程後期に在学し、必要な研究指導を受けた者。

(提出期限)

博士論文提出の1年前

(提出書類)

予備論文、履歴書、研究業績一覧、公刊した学術論文。その他、専攻で必要と認めた書類。

<博士論文>

(提出資格)

博士課程後期に在学し、必要な研究指導を受けた者。予備論文審査に合格した者。

(提出期限)

1月末日または6月末日。(ただし、2010年度以前に本大学院の博士課程後期に入学した者は3月末日または9月末日。)

(提出書類)

博士論文・論文概要書各5部。その他の提出書類については専攻の定めによる。

(論文の審査)

博士論文の審査のため、研究科委員会は審査委員会を組織する。

審査委員会は、当該研究科の教員のうちから学位論文に関連のある授業科目を担当する教員3名以上を含む5名を審査委員に選出する。

#### (最終試験)

最終試験として、博士論文審査委員会は、公開の場における口頭試問を行うこととする。なお必要に応じて、最終試験に先立ち、審査委員のみによる口頭試問を行うことができる。口頭試問においては、学位論文の内容について論理的に説明する表現力、コミュニケーション能力が十分に発揮できるか、専門領域に限定されない幅広い視野と柔軟な思考力を持っているか、また多様な史料についての情報収集能力・読解力・分析力に長けているか、独創的で自立した研究活動を展開できる能力を持っているか、総じて学問の発展に寄与することができるかについても評価を行うこととする。

#### (審査結果の判定)

論文の可否は、主査および副査による評価を踏まえ、博士論文審査委員会で決定する。可否の判定に際して、論文が、深く幅広い学識に裏付けられ、適切で豊かな表現力に拠る説得的なものであるか、独創的で発展可能性のある研究と認められるかなどを中心に、学位授与方針に基づく達成度に照らして評価を行う。博士論文審査委員会の決定及び評価を受けて、学位授与の可否について研究科委員会の審議を経て最終決定する。

## (2) 論文審査基準

### [博士論文]

博士論文の審査及び最終試験の試問により、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有しているかを審査する。なお、博士論文は各研究科の学位論文審査基準（大学院要覧 28 頁以降参照）に従って審査される。